

別紙

福祉サービス第三者評価の結果

1 評価機関

名称：株式会社マスネットワーク	所在地：長野県松本市巾上 13-6
評価実施期間：平成 28 年 7 月 1 日から平成 28 年 12 月 12 日	
評価調査者 060802 060792 060773 050231	

2 福祉サービス事業者情報（平成 28 年 7 月現在）

事業所名：訪問看護ステーションやまびこ （施設名）	種別：訪問看護ステーション
代表者氏名： 代表理事理事長 社浦 康三 （管理者氏名）管理者 佐々木 厚子	定員（利用人数）：85 名
設置主体：長野県厚生農業協同組合連合会 経営主体：鹿教湯三才山リハビリテーションセンター	開設（指定）年月日： 平成 10 年 1 月 1 日
所在地：〒386-1106 長野県上田市小泉 72-1	
電話番号：0268-26-6640	FAX 番号：0268-26-6645
ホームページアドレス： http://km-rehacentare.jp/	
職員数	常勤職員： 7 名 非常勤職員 19 名
専門職員	（専門職の名称） 理学療法士 8 名
	看護師 7 名 作業療法士 7 名
	言語聴覚士 3 名
施設・設備 の概要	（居室数） （設備等） 事務室、面接室 タブレット、訪問車

3 理念・基本方針

理念 「私たちは保険、医療、リハビリテーションおよび福祉活動を通じて高齢者・障害者が自分らしく生き生きと輝いて暮せるように、地域のみなさまとともに支援いたします。
基本方針 1. 人権を尊重し、常に利用者の立場に立った看護、リハビリの提供をします。 2. 質の高い看護、リハビリを適切かつ安全に提供します。 3. 多様なニーズに応えられるよう、地域の医療、保険、福祉サービスと協働します。 4. 地域社会において評価されるよう自己研鑽に努めます。

4 福祉サービス事業者の特徴的な取り組み

私たちは、在宅療養者と、その家族及び地域住民に適切な看護、リハビリテーションサービスが利用できるように支援し、20年間の在宅支援の経験から生活の質の向上を図るための活動をしてきました。
--

鹿教湯病院との連携にて脳血管障害、神経難病、障害者福祉の実践と経験を活かしその人らしい生活がいきいきと送れるように、支援しています。

ステーションは、介護老人保健施設の中に事務所があり、入所会との連絡表の活用や、地域でのケアカンファレンスにも入所会のスタッフも参加しています。

また、開設当社からJAの福祉活動、助け合いの会との協働の精神をやまびこには現在にも引き継ぎ、定期的なカンファレンスも開催しています。近隣の訪問看護ステーションが閉鎖する中、医療依存度の高い利用者の訪問が多く、介護保険の看護体制強化加算が算定可能となっています。地域の開業医との連携による在宅の看取りも徐々に多くなり、地域の包括ケア会議の開催も多く、24時間体制を強化し、地域で必要とされる在宅サービスとなっています。

5 第三者評価の受審状況

受審回数（前回の受審時期）	今回初受審
---------------	-------

6 評価結果総評（利用者調査結果を含む。）

特に良いと思う点

1 < 利用者の思い、在宅生活者に寄り添った支援 >

長野県厚生連の理念、鹿教湯病院の理念から訪問看護ステーションの基本方針が職員にしっかり理解され、訪問看護として、自分たちが何を行うかを明確にし、行動に移し利用者の看護にあたっている。鹿教湯病院の地域医療部として組織化され、訪問看護ステーションの2か所が目指す方向を「利用者が障害や疾病を抱えても自宅で生活する支援、その人がしたい事にどのように寄り添えるか」を常に考えサービスに努める姿勢が職員のすべてから感じ取ることができる。

専門職である前に人としての優しさと利用者の生活に寄り添った支援、専門職としての相談しやすさや適切な対応は、利用者や利用者家族が安心して在宅を継続できる大きな源になっている。

2 < 地域に根差した地域との関係づくり >

JA長野厚生連は地域に根差した医療活動を展開し「地域の住民と共に」を大切に活動している。訪問看護ステーションやまびこ担当地域の中でJA組織の繋がりも強くその活動には「安心できる質の高い技術、分かり易い説明」「人柄、優しさ」等々利用者の信頼を寄せる賞賛の声が聞かれる。

厚生連中・長期計画にも大きな柱として示されている「地域ぐるみの健康管理活動を積極的に展開する」に、基つき将来を見据えた地域包括ケアシステムに向け地域にニーズを把握し、より在宅医療や介護福祉事業との協力のもと効果的な質の高い医療、介護提供体制が始まっている。

JA祭・いづみの祭・病院祭への参加、家族との外室参加、薬剤師との学集会を行い、地域との関わりを大切に連携に努めている。

3 < 他職種連携や職員間のコミュニケーションが良好 >

訪問看護ステーションは、法人が経営する老人保健施設内に事業所があり、訪問リハビリ、居宅介護支援事業所、また、JAが経営する訪問介護ステーションもあるため、日々相談しやすい環境にある。他職種連携がとりやすく、利用者の情報交換や専門的

なアドバイス等ができやすく良好な関係を構築している。

4<IT化による業務の効率化>

訪問看護ステーションは、定められた基準に沿った適切な対応が求められている。事業所では各分野での業務が良好に進行できるようハード面(コンピューター、モバイル等)の取り組みに努めている。医療管理、療養方針の理解と共有が行いやすくなり、介護支援、チームケア、緊急時の対応等に有効活用し、業務のスムーズな流れにより、利用者、家族の大きな安心と安全につながっている。また、24時間拘束体制の中で業務に携わる職員の大きな力となっている。

特に改善する必要があると思う点

1<アセスメント工夫による医療、生活の視点からのチーム支援>

初回アセスメントでは、利用者・家族アセスメントも行い、居宅サービス計画書に基づいた訪問看護計画書が作成されている。今後、訪問看護の地域での役割は大きく生命を維持するためのアセスメント、生活を維持するためのアセスメントから課題領域を明らかにした記録を定期的に行い、更なる生活向上に向けたチーム支援に期待したい。

2<災害時のトリアージ>

訪問看護ステーションやまびこは老人保健施設いずみのに事業所を構えているため、施設での避難訓練は施設職員と同様役割を持って参加している。在宅の利用者には全職員が家族と協力してトリアージを行い優先順位に抛り連絡できるようになっている。今後、取り組んだトリアージ分類を利用した災害への取り組みや避難など更なる活用方法の検討が望まれる。更に同法人の老人保健施設との協力により、今後の課題として取り組みに期待したい。

7 事業評価の結果(詳細)と講評

評価対象1及び評価対象 (別添1)

評価対象 (別添2)

8 利用者調査の結果

アンケート方式の場合(別添3-1)

9 第三者評価結果に対する福祉サービス事業者のコメント（別添４）

平成 28 年 12 月 28 日記載

今回第三者評価を受審することにより、法人の理念、経営の視点、職場の方針、職務に対する指針を改めて確認する機会を得ることができました。

開設以来、地域の開業医の先生方からの信頼をいただき、JAの福祉活動や地域ケア会議への参加など地域の関連機関とも積極的に連携を深めてきました。

今回の利用者調査では、職員が大変励みになるお言葉をたくさんいただき感謝しております。まだ、満足のいただけない事柄に関しては真摯に受け止め改善をしていきたいと思えます。

また、利用者の安全と安心を確保できるようご講評をいただいた災害時の取り組みなどの課題についても職場内で協議しながら進めていきたいと思えます。

受審することにより、第三者の目で評価をしていただいたことで自らの事業者としての強みと弱みが見えてきました。系列の老人保健施設内に事務所があることを活かしてさらに地域に密着した事業所でありたいと思えます。

利用者の生活の場を支え、利用者の言葉に耳を傾け寄り添う看護が行えるよう今後も努力してまいります。